

令和4年度 コシヒカリ (中間・平坦部) 栽培基準

月・旬	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月				
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬				
生育ステージ	播種期		移植期		幼穂形成期		出穂期		成熟期								
葉色	5月25日定植の場合 播種期		田植期	活着期	有効分げつ終止期	最高分げつ期	穂首分化期	幼穂形成期	幼穂長1cm	減数分裂期	穂ばらみ期	出穂期	成熟期				
			3.5	4.7	3.8	4.5	-32	-25	-18	-14	-5	0					
水管理	濃い ↑ ↓ 薄い		5.0	4.0	3.0												
主な作業	種子消毒	播種	基肥散布	箱施用剤散布	田植	除草剤散布	中干し	けい酸加里施用	補完防除	穂肥散布①	畦畔の草刈	穂肥散布②	出穂前防除	穂揃期防除	補完防除	稲刈り	土づくり
使用資材		催芽剤 150g/箱	施肥基準参考	防除基準参考	除草剤基準参考				防除基準参考	施肥基準参考	施肥基準参考	防除基準参考	防除基準参考	防除基準参考	防除基準参考		
作業上の注意	4月の作業注意点 育苗 ・種子更新する ・播種は催芽剤で150g ・昼夜の温度に気を付ける ・灌水のやりすぎに注意 基肥散布 ・全層施肥の場合は田植10日前頃から散布、よく土壌と混和 ・施肥基準量は遵守する(土壌条件にて加減する)		5月の作業注意点 田植 ・田植時期を遵守する ・極端な早植、遅植は避ける ・1株3～4本植、60株/坪 除草剤散布 ・しっかり圃場に水をためて散布する ・散布後7日程度は止水し、河川に流れ出ないようにする ・漏水圃場は水がある状態を保つため補う		6月の作業注意点 中干し ・田植後30日頃を目安に実施 ・茎数過多 → 強めの中干しを ・茎数過少 → 間断灌水の延長 畦畔の草刈り ・カメムシ対策のため、遅くとも出穂前2週間までに畦畔の草刈りを実施 ・出穂前後は、カメムシ被害を助長するので草刈りを実施しない		7月の作業注意点 穂肥散布 ・分施の場合1回目は出穂前18日頃(幼穂長1cmを確認) 2回目は出穂前13日頃を実施 ・緩効性肥料使用で葉色が淡い場合、2回目の時期に追肥(窒素成分で1～1.5kg/10a) 出穂期防除 ・散布時期は粉剤、液剤で出穂前10～7日頃 粒剤で出穂前10日頃		8月の作業注意点 穂揃期防除 ・散布時期は粉剤、液剤で出穂後7日頃 補完防除 ・病害虫の多発時には穂揃期防除7日後を目安に追加で防除を実施する		9月の作業注意点 刈取り ・刈取りの判断は青み率が10～15% 積算温度で950～1,000℃ ・玄米水分値15.0%を目標に乾燥調整 土づくり ・土壌改良資材を投入し年内に糞のすき込みを行い十分に分解させる						

施肥基準

●分施の場合

肥料名	全量	基肥	追肥	穂肥	穂肥	成分量	
						窒素	リン酸加里
土壌改良資材	40～200						
28苦土重焼燐	10～20	10～20				窒素	6.3kg
化成肥料14-14-14	45	20		15	10	リン酸	9.1～11.9kg
けい酸加里プレミア34	10～20		10～20			加里	8.3～10.3kg
計							

肥料名	全量	基肥	追肥	穂肥	穂肥	成分量	
						窒素	リン酸加里
土壌改良資材	40～200						
28苦土重焼燐	10～20	10～20				窒素	6.0kg
化成肥料14-14-14	20	20				リン酸	6.4～9.2kg
けい酸加里プレミア34	10～20		10～20			加里	6.8～8.8kg
穂づくり640	20			20			
計							

●緩効性の場合

肥料名	全量	基肥	追肥	成分量	
				窒素	リン酸加里
土壌改良資材	40～200				
28苦土重焼燐	10～20	10～20			
ユーコート002	30	30			
またはセラコートR004	30	30			
けい酸加里プレミア34	10～20		10～20		
計					

※肥料は圃場の地力に応じて施肥量を加減して下さい。
 ※けい酸加里プレミア34は基肥で施用も可能です。
 ※緩効性肥料施用の場合、出穂前に葉色が淡くなる場合は「化成肥料14-14-14」を10kg/10a程度散布しましょう。